



加茂市立小中学校 適正化方針（案）

説明懇談会を開催しました

令和6年3月に策定・公表した加茂市立小中学校適正化方針（案）について、市民の皆様から理解を深めてもらうことを目的に、市内7地区で説明懇談会を開催しました。

ご参加いただいた方々に感謝申し上げます。

説明懇談会全体を通じて、全体的には学校統合に前向きな声が多く、学校統合を急いでほしい、学校統合に向けて児童生徒が不安を抱かぬよう統合前に交流の機会を積極的に設けてほしい、教職員等の配置に十分な配慮をお願いしたいなどといった要望などが寄せられました。また、今後の学校教育の在り方、学校統合に伴う学校給食や部活動の在り方などについても話し合い、理解を深める貴重な機会となりました。一方で、地域のシンボルである小中学校の多くが閉校になるのは寂しいという声も寄せられました。いただいた意見・要望を踏まえ、加茂市の魅力を生かした新しい学校を市民の皆様と一緒に創っていきたいと思います。

今後はパブリックコメントも参考にした上で、加茂市立小中学校適正化方針を策定していきます。

▶ 説明懇談会資料

<https://www.city.kamo.niigata.jp/docs/229620.html>



① 3/17(日) 加茂文化会館小ホール
14:00～15:50 参加者：45名



② 3/19(火) 須田コミュニティセンター
19:00～21:10 参加者：23名



③ 3/22(金) 中央コミュニティセンター
19:00～20:30 参加者：9名



④ 3/24(日) 七谷コミュニティセンター
10:00～11:45 参加者：28名



⑤ 3/24(日) 下条コミュニティセンター
19:00~20:30 参加者：9名



⑥ 4/17(水) 加茂小学校 体育館
19:00~20:10 参加者：20名



⑦ 4/19(金) 公民館 西分館
19:00~20:35 参加者：11名



寄せられた意見・要望（抜粋）と回答

統合すると1学級が大人数になり、環境変化が大きいと思う。児童生徒への十分な配慮・支援が必要ではないか？

児童生徒へ丁寧に説明し、統合しても環境の変化に対応できる体制を構築していきます。例えば、統合前から合同で授業や行事を行ったり、レクリエーションを開催することで交流を図り、統合後は教職員の配置にも十分配慮していきます。

統合により、不登校になる児童生徒が増えるのではないかと心配だ。

児童生徒にとって、クラス替えができる規模の環境で学ぶことが、より良い人間関係の構築に繋がると考えています。統合による環境変化によって、児童生徒が戸惑うことがないよう、統合前から交流事業を開催したり、教職員の配置に配慮するなど、支援していく体制を構築していきます。なお、現在も学校や教育委員会で各種相談に応じているほか、教育支援センター「やすらぎ」でも支援をしています。

1学級40人を1人の担任で指導するのは大変である。統合した学校における教員のサポートはどうするのか？

教職員数を一時的に増やしてもらえるよう新潟県にお願いしています。統合する前後2年で教職員を増やしてもらえることが多いようです。統合後もスクールアシスタントや介助員などを適正に配置し、きめ細やかサポートしていきます。また、教職員が働きやすい環境を目指し、校務のDX化を推進しています。

小・中学校を同時期に統合できないのか？

11校を数年間で2・3校に統合する例は全国的にも稀です。準備すべきことが多く、慎重に進めなければならないことについてご理解ください。何より児童生徒や学校現場の負担を考慮することを大切にしたいと思います。

中学校の校舎を新築する場合はどこに建てるのか？

早く建てるためには市の所有地が第一候補となります。建設に必要な面積、生徒の通学距離などを勘案し、検討していきます。

寄せられた意見・要望（抜粋）と回答

統合後の廃校利用や跡地利用は考えているか？	有効な使い方を地域の方々と相談していきます。民間等への売却も含め、市の公共施設アクションプランなどと整合性を取りながら、具体的に検討していきます。
3つのシミュレーションで、費用がかかる順番は？	今のところ、②→①→③の順であると考えています。ただし、昨今の物価高騰等、社会情勢によって変動する可能性があります。なお、③は、20数年後に大規模改修や建替を考えなければならないことから、その段階で多額の費用がかかります。
統合をきっかけにアレルギーに対応した給食は提供されるのか？アレルギーに詳しい人材はいるのか？	給食施設の新設・改修も併せて実施し、アレルギー対応給食の提供を可能にしたいと考えています。アレルギーに詳しい栄養教諭は、調理場がある学校に配置されています。
加茂南小学校を活用すると、教員や保護者の駐車場が足りないのではないのか？道路も狭いので拡張すべきではないか？	プールを解体してスペースを確保すること、近隣の駐車場を借りることなどを検討しています。道路の拡張はすぐにはできないかもしれませんが、登下校の安全確保を第一に、できる限りの対策を講じていきます。
小中一貫校にする考えはないのか？3つのシミュレーションは誰が考えたのか？	小中一貫校には様々なタイプがあり、小中学校適正規模等検討委員会でも議論をしました。メリット・デメリットを踏まえ、メリットは取り入れていきたいと思えます。シミュレーションの案は検討委員会による答申、市民アンケートの結果、長期財政シミュレーション等を踏まえて教育委員会が考案したものです。
学校統合がスムーズに進むためには、教職員の意見も聞くべきではないか。	教育委員会としても、教職員はもちろん、市民の皆様へ積極的に情報を発信し、教育現場や地域の方々からも参画していただき、協議を重ねていくことが大事であると考えています。皆で新しい学校を創っていききたいと思えます。
子育て世代の意見を重視したい。市全体として、次世代を担う若い人たちをバックアップしていく必要がある。	教育だけではなく、市全体のまちづくりという観点から、子育て世代の方々の声を反映させていきたいと思えます。併せて、若い世代の方々も、更に市政に参画できる仕組みも考えていきます。
「教育課程特例校」とは何か？	学習指導要領等によらない教育課程を編成して、実施することを認める制度です。例えば、学校や地域の特性を生かした新しい教科を設置したり、学区に縛られずどこから通っても良いという学校などがあります。 (参考) 文部科学省 教育課程特例校制度・授業時数特例校制度 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokureikou/index.htm
どうすれば、児童生徒が郷土愛を育むことができるのか？	統合しても、加茂の地域ごとにある特色や自然に多く触れさせたいと考えています。また、それぞれの地域の方々と交流し、加茂の様々な魅力を学び、児童生徒自身が発信していく仕組みを構築することを目指します。
市の予算を削減するために、公共施設が閉館したり、開館時間が短縮されているが、削減する予算はどこに使われるのか？	将来を担う子ども達のために、より良い教育環境を整えていく必要があるため、今は経費を削減し、金を貯めなければなりません。加えて、道路や水道など、市民の皆様が生活をする上でどうしても必要なものは放っておけないので、必要な予算を確保し、計画的に更新していかなければなりません。
部活動は今後どう変わるのか？	令和5年度から令和7年度で部活動の地域移行を実施しており、地域の指導者が休日の部活動を指導することなどを進めています。
人数の足りない部活動は、市全体で合同開催してみてもどうか。	統合に先駆けて、既に一部の競技では開催しており、今後も進めていきたいと思えます。
財政難であれば、寄付を募ってはどうか。新校舎を造りたいことを市長がアピールしていくべきではないか。	全国各地の事例を参考にし、施設の改修・新設の段階になったら、ふるさと納税型クラウドファンディングなどで寄付を募ることも手法の1つであると考えます。市長自身も様々な場でアピールしていきたいと思えます。そのためには、魅力ある学校づくりを展開していく必要があります。